

自動アルマイトライン新設

特殊機能アルマイト量産へ

金属表面処理加工を手掛ける東栄電化工業（本社・神奈川県相模原市、社長・山本茂樹氏）は、相模原本社工場を増強する。約10億円を投じて4階建ての新工場建屋を建設し、耐熱性や耐食性を高めた独自の特殊機能アルマイト「TAF（タフ）シリーズ」向けの自動アルマイトラインを新設する。月間数万個という量産体制を確立し、自動車や半導体産業などからの受注拡大を目指す。

今年4月30日に現地で地鎮祭を開催しており、12月25日ごろをめぐりに一部設備を稼働させる考え。

新E棟は1階部分に「TAFシリーズ」に対応した自動アルマイトラインを設置する。同設備は月間数万個の受注の荷も対応できる量産ライン。山本茂樹社長は「これまでは研究がメインだったが、需

東栄電化グループは1956年に創業した表面処理メーカー。相模原の本社工場や一関工場（岩手県一関市）、目黒工場（東京都目黒区）などで光学部品、半導体装置、自動車、産業機械などに使用されるアルマイト処理、フープ金メッキ処理などを手掛けている。表

面品質の安定性などに定評があるほか、近年は従来のアルマイト技術にはない機能性アルマイトに注力。350度の高温環境下でもクラック（割れ）が発生しない耐熱アルマイトを始めとする「TAFシリーズ」を提案している。本社工場への設備投

資は数年前から検討をなっていたスペースに4階建ての「新E棟」を建設。新E棟が本格稼働したのちに既存の三つの工場建屋を取り壊す方針で、新E棟へ設備を集約することで作業の効率化を図る。



「新E棟」のイメージ(手前)

要家からの要望が高まってきたので自動ラインの導入を決めた」と説明する。自動車や半導体産業などからの受注にも対応できる体制を整える。また3階部分には、別の既存建屋で手掛けているカラーアルマイトラインや小物部品用アルマイトラインを設置する計画。

